

「三島由紀夫作品」 署名本に熱き想い

国際文化学部 富岡 幸一郎

三島由紀夫が東京・市ヶ谷の自衛隊（現防衛省）で割腹自決をしてから、すでに42年の歳月が過ぎた。

1970年11月29日の、あの日のことはよく覚えている。私は中学1年生で、三島の名前も、その小説も読んだことがなかった。その後、三島文学の華麗な文体に魅せられ、友人たちと三島本を集めだした。高校生の頃に「仮面の告白」の初版本を神田の古本屋で買ったことなど懐かしく思い出す。

文芸批評を書きだし、縁あって鎌倉に転居し、作家の林房雄の次男である後藤昭彦さんとお会いした。夏目書房から林房雄のコレクションを刊行し、私も解説を書いた。そのころ、後藤さんから三島から林房雄に贈られた多くの著作の寄贈を受け、本学図書館文学部分館（金沢文庫キャンパス）に所蔵させていただいている。尊敬する先輩作家であった林房雄の熱い想い（おもい）が伝わる、三島の貴重な署名本がズラリと並ぶ。

（初出「神奈川新聞」2012年8月20日付）

※本文は初出時のまま掲載しています。



本学図書館貴重資料 『獣の戯れ』